



BβEテルH通E信

2025年11月号（第268号）

松山ベテル病院 松山市祝谷6丁目1229番地 TEL089-925-5000
ホームページ <https://www.bethel.or.jp/>



最期までその人らしく生きること

9月22日～10月19日まで緩和ケア病棟で研修されていた山根未久先生に記事を寄せていただきました。

このたび、4週間にわたり松山ベテル病院で研修の機会をいただきました。普段は急性期病院で研修をしており、病気の診断や治療に重点を置いた医療に携わっています。そのため、患者さまが最期の時期をどのように過ごし、どのように支えられているのかを間近で学べたことは、私にとって大変貴重な経験となりました。

研修を通じて特に印象に残ったのは、患者さまやご家族に向き合う姿勢です。これまでの急性期病院では、検査値や症状の変化ばかりに注目し、その人がどう生きてきて、これからどう過ごしていきたいのかという視点を見落としていたように思います。ここでは、病気を治すことよりも「その人らしく生きること」を支える医療が日々実践されており、病院でありながらどこか家庭のような温かさがあり、医療の在り方についての固定観念が大きく揺さぶられました。タバコやお酒も一律に制限されるのではなく、本人の楽しみとして尊重され、「その人の人生の一部」として自然に受け入れられていました。医療が「制限するもの」ではなく、「その人らしさを尊重するもの」になり得るということを実感しました。毎日のカンファレンスでは、症状や検査値だけでなく、患者さまの背景やこれまでの人生、ご家族の思いまでも含めて丁寧に話し合われていました。単に痛みを取るだけでなく、苦しみや不安をどう受け止め、どう寄り添うか。多職種のスタッフが互いを尊重し合いながら、一人ひとりの患者さまに最適なケアを提供されている姿に深く感銘を受け、医療の本質を見た気がしました。

また、在宅での緩和ケアにも同行させていただきました。脳腫瘍と闘う幼いお子さんのご家庭を訪問した際、「できるだけ家族と一緒に過ごしたい」というご両親の思いを大切に、入院や痛みを伴う点滴を避け、自宅でできる範囲の治療を選択されていました。その時間を守るために医療ができることには限りがありますが、だからこそ一瞬一瞬を大切に生きる姿に、胸を打たれました。

今回の研修で得た経験は、医師としてだけでなく、一人の人間としても大きな財産です。ここで学んだことを胸に、これからの研修や診療に活かしていきたいと思います。4週間、本当にありがとうございました。

（愛媛大学附属病院 研修医 山根 未久）



東温市河之内にある 惣河内神社のしめ縄龍



東温市河之内にある惣河内神社に、二体のしめ縄龍（唐岬龍(雌)・白猪龍(雄)）が奉納されているのをご存じでしょうか。今秋も、三体目のしめ縄龍が地域の方々によって製作され、12月13日(土)に神社に奉納される予定です。

しめ縄龍製作の発端は、惣河内神社・佐伯宮司さんの「龍を使って地域おこしをしよう」の提案にあります。惣河内神社は、松山藩の雨乞い所であった^{あめたきみしまじんじゃ}雨瀧三島神社を合祀した水の聖地。この地域は、清らかな滝・水と美しい棚田があり、昨年には日本一おいしいお米と表彰された「河之内米」が作られています。限界集落で、徐々に農家の数が減っているそうです。しめ縄龍づくりには、この地域を活性化し、素晴らしい米づくりを継承したいとの強い思いがこめられています。地元の多くの農家さんをはじめ、小学校の児童も加わって、美しい藁が採れる稲を植え、稲刈り・稲木で天日干し、早めに脱穀して青い稲藁を確保します。それを長さや太さを整え保管し、しめ縄を^な縄って龍の製作に使います。

久万高原町の人形作家さんがしめ縄龍の頭部を製作します。鹿の角や猪の牙、シュロ、発泡スチロール、粘土なども使い、威厳のある龍の顔・頭を作り、昨年は、20メートルもある胴体と合体させたそうです。写真にも写っていますが、龍が担いでいる米俵の中には、たくさんの願い札が納められています。昨年は、私も納めさせていただきました。11月中は、惣河内神社で願い札を受付けているそうです。願い札を書いて納めてみませんか。

三体目のしめ縄龍は、河之内出身で幕末から明治にかけて活躍した無私の偉人・近藤林内翁から、「林内(りんない)龍」と名付けられるそうです。

12月13日の「林内龍」の奉納は、御神事と、和太鼓やほら貝の奉奏、「龍の道しるべ」など歌の奉納もあります。三体のしめ縄龍と、地域愛あふれる住民のみなさんに会いに行きませんか。

健康長寿のために最も大切なものは、「人のつながり」とありました。社会参加・地域力・楽しい食事、人のつながりの大切さを、この河之内地域の元気な方々から学んでいます。



惣河内神社



唐岬龍（雌・R5年作）



白猪龍(雄・R6年作)

(ホスピス医 奥村 淳子)



“1枚のレコードから人の命を救えますか？”

~We Are the World~



皆さん人生の中で沢山の音楽を聴いてきたと思いますが、大好きな曲や、聴くと胸が熱くなる曲があると思います。私の場合は、1985年発表『We Are the World』です。歌詞もメロディーも心が揺さぶられますが、特にメイキング映像を見るたび胸にグッと響くものがあります。

この曲は当時、アフリカで度重なる干ばつ、内戦、貧困のために食料や水が無く、栄養失調や適切な医療が受けられず多くの人々が亡くなっていく状況に対し、救いの手を差し伸べようという目的のもと、世界で活躍する45名のスーパースター達が1985年1月28日の夜にハリウッドのスタジオに集結し、制作されました。

参加メンバーは、マイケルジャクソンをはじめ、ライオネルリッチー、スティーヴィーワンダー、ビリージョエル、シンディローパー、レイチャールズなどなど、参加メンバー45名全員が出演料を請求したら、とんでもない金額になるところでしたが、この世紀のレコーディングは、出演者45名、制作スタッフ150名、全て無償で行われました。レコーディング時間は、参加メンバーそれぞれが超多忙スケジュールのため、わずか一晩しかなく徹夜で行われ、緊迫感が映像越しにもピリピリと伝わってきます。一晩のうちに収録を終わらせなければならない状況でしたが、そこは音楽性には強いこだわりを持つスーパースター達。コーラスのフレーズを巡って意見がぶつかり何度も変更されるシーンもありましたが、歌詞にもあるように『We are the world (私たちはひとつの地球)』、『We are the children (私たちはみんな神の子供)』という強い使命感と連帯感で衝突を乗り越え、明け方に無事収録を終えます。

普段はライバル同士のスーパースターたちが、立場や考え方が違って、差し迫ったアフリカの飢餓に立ち向かうため、エゴを捨て、限られた時間の中で疲労困憊になりながらも最後まで歌い上げる姿は、何度映像を観ても胸が熱くなってしまう。

この曲は全世界で多くの人々に共感を与え、2,000万枚以上の売上を記録し、関連グッズ、寄付を含めると240億円を集め、食料、薬品、物資となって飢えに苦しむアフリカの人々に届けられました。1枚のレコードが世界の人々の心を動かしたのです。

現在、ウクライナやガザ地区では毎日多くの市民や兵士が命を落としています。ガザでは停戦の動きも見えていますがまだ予断は許されず、自分の街、家が破壊され、目の前で家族が死にゆく状況を自分の身に置き換えてみると胸が痛みます。40年前に起きたWe Are the Worldプロジェクトのように世界の人々が他人を思いやるムーヴメントがまた世界的に起こることを切に願って止みません。

(施設管理課 課長 入船 真)

外来診療日のお知らせ

◎豊田 泰孝 医師（精神科・心療内科）
11月12日（水） 11月26日（水）



◎11月の休診（10月23日現在）
11月17日（月）次田 靖功 医師（整形外科・リハビリテーション科）

松山ベテル病院では、接遇目標・医療安全推進目標をかかげています

11月 接遇目標

二〇二五年 十一月の接遇目標

ちよっとひと息、ひと休み
心にゆとりをもつために
大切な時間

聖愛会
接遇委員会

接遇委員会

11・12月 医療安全推進目標

11・12月医療安全推進目標

患者さまの安全を守る私たちの環境を整え
安全なケアを提供します



医療安全委員会

地方祭



10月7日（火）

お神輿と獅子舞が病院に来ました。
まだまだ厳しい暑さの中でしたが、
秋の行事に心も弾む一日となりました。

ベテル旬会
名月に
残りの命
託しけり
(まさはる)

- ・投句箱を外来・各病棟に設置しています。皆様のご投句をお待ちしております。
- ・『ベテル通信』について、ご意見やご要望を「ご意見箱」へお寄せください。
- ・掲載中の写真についてはご本人、ご家族の許可を得ています。



発行日 2025年10月23日